

ニホンナシ「幸水」摘心栽培の手引き(ダイジェスト版)

富山県園芸振興推進協議会
富山県農林水産総合技術センター園芸研究所果樹研究センター

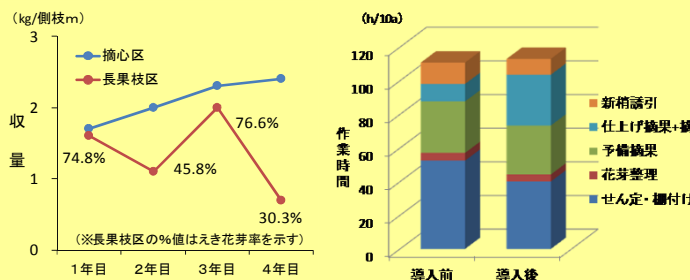
1. 摘心栽培とは・・・

「摘心栽培」は、伸び始めた新梢を果そう葉を残して基部から切除(摘心)し、人為的に短果枝を着生させ、短果枝を主体に着果させる栽培方法です！



2. 導入効果

- (1) 短果枝の確保・維持が容易です！
- (2) 収量が安定します！
- (3) せん定や棚付け作業の省力化が期待できます！

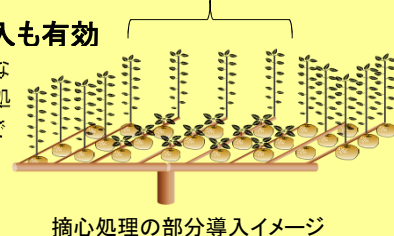


摘心処理が収量に及ぼす影響 (摘心区は同一側枝を4年間利用、長果枝区は側枝を毎年更新)

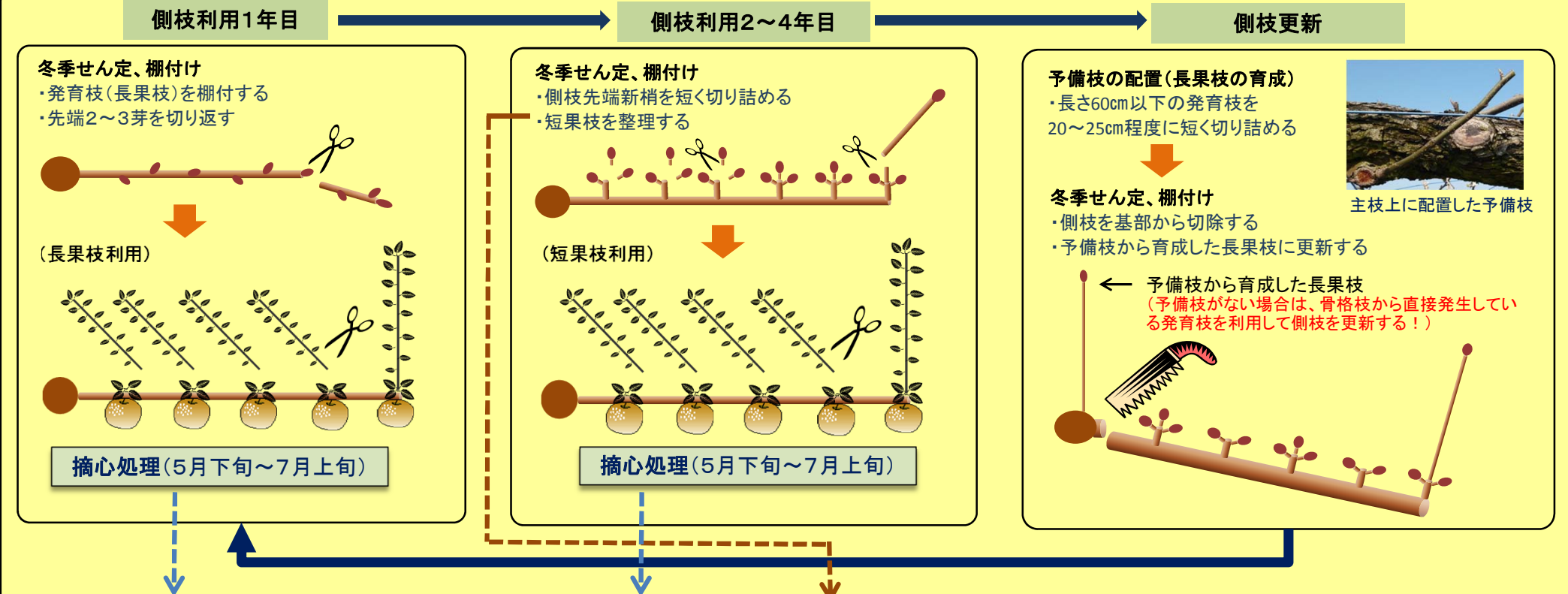
主要作業時間 (園地利用率85%、側枝密度300cm/m²で試算)

3. 導入上の留意点(成功のポイント)

- (1) 骨格枝の整理により側枝を適正に配置する
側枝が等間隔で整然と配置された樹は、摘心などの作業を効率的に進めることができます。側枝を適正に配置できるよう、余分な骨格枝を整理します。
- (2) 勢力の弱い側枝を更新する
新梢の伸びが弱く、短果枝の着生も少ない側枝は、いったん新しい側枝に更新した上で摘心処理を行います。
- (3) 樹勢強化対策を併用する
予備枝の配置、強勢な枝の側枝利用、堆肥の局所施用などの樹勢強化対策を併用すると増収効果も期待できます。
- (4) 短果枝整理は必須
短果枝の整理は摘心栽培での必須作業です。
勢力の強い新梢が発生しやすい樹冠内部に摘心処理を導入
- (5) 摘心処理の部分導入も有効
摘心処理の全園導入が困難な場合は、樹冠内部にのみ摘心処理を実施する部分導入も有効です。



4. 摘心栽培の流れ

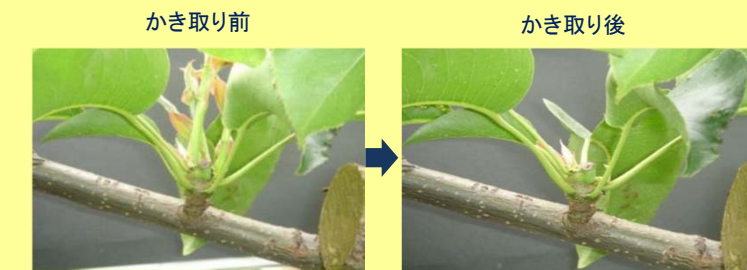


●摘心処理

- ・処理時期: 満開40~70日後頃(5月下旬~7月上旬)
- ・処理方法: 基部の果そう葉(節間の詰まった葉)を残して新梢を切除
- ・処理新梢: 側枝先端新梢を除くすべての新梢を摘心処理



＜再伸長した新梢の扱い＞
新梢の再伸長が見られる場合は、上記の摘心作業と併せて、これらを随時かき取る。



●短果枝の整理

余分な短果枝を整理することで事前に着果量が制限でき、摘果作業の効率化が図られます。摘心作業の時間を確保する上で、摘果作業の効率化は必須不可欠です。

＜短果枝の整理例＞



- ① 2個の短果枝が形成されたもの。外向きの短果枝1個を残す。
- ② 短果枝が複数着生した短果枝群。外向きの短果枝1~2個を残す。
- ③ えき花芽(腋の花芽)が着生した短果枝。えき花芽は摘除し、先端の花芽だけを残す。
- ④ 側枝の腹面に着生した短果枝。果実の肥大が悪いので切除する。
- ⑤ 側枝から離れた高い位置に短果枝が形成されたもの。側枝にもっとも近い短果枝まで切戻す。
- ⑥ 太く大きくなりすぎた短果枝群。基部から切除する。